

江源氏鑑

七



部	部
年	年
月	月
日	日

寄

寄	贈
明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名	大正七年六月八日

江源武鑑卷第七

弘治二丙辰年

武鑑
卷第七
印

其於正月

朔日ヨリ五日ニ至テ雪降ル近年ニタクヒナシ
 六月江西平野宮鳴動ノヨシ觀音城ニ言上ス
 十五日當屋形并後見義賢八幡山義昌上洛
 公方依御不例ナリ
 十六日將軍家御不例ニ依テ諸社ニ於テ大
 般著經修讀スヘキヨシ國々ニ被觸渡近國ノ

大名不殘上洛ス
廿二日屋形ノ伯父定頼ノ御吊アリ正日ハ
今日一日ナレハ政務ニ事有テ今日江雲寺
ニ於テ被執行
廿五日大地震江陽和田山本丸城門ノ石垣
百余間崩ル同日山門横川ノ中堂半破倒ス
其外皇家將軍家ノ殿門多破倒ス

二月

廿日末原氏高ノ息大炊頭ニ今日屋形ヨリ

御諱字ヲ玉ツテ實高ニ大レ玉フ此末原ハ
屋形ノ族ナリ江陽旗頭ノ其一人也
今日六日西國ノ面々ヨリ將軍家ニ言上ス
今春ノ比ヨリ赤松ノ殘黨大明ニ渡舟レテ
悉ク異人ヲ討テ村里八百余ニテ放火ト云
廿四日高頼公ノ舎弟種村伊豫入道高成卒
又春秋八十九歳

三月
三日佐々木御社祭礼例年ノコト

十四日石見國安濃郡ヨリ白麻大サ小牛ノ
如シ今日將軍家ニ獻ス後皇家ニ上ル
廿五日ノ月酉剋ヨリ出ル

十四日四月... 十三日日吉ノ祭礼三好家ノ若兵五十三人
ト箕作義賢ノ若兵三十二人ト夕カヒニハサ
ラヲツクシアイロ論ニ成テ大キニ戦ヲ坂
本ノ地下人共自國ノ兵ヲ討セシト三好家
ノ者共ヲ中ニ取籠テ一人モ不殘討ツ折節

三好在京シテアリシカ此事ヲ聞山中越ニ
三里余ノ道ヲ一騎馳ニ馳來ル此事ヲ聞テ
志賀郡旗頭和田中書負繩三百騎ニテ坂本
ニ馳寄其外大津勢多御家人馳來テ江陽ノ
勢坂本ニ集ル一万余ニ及フ三好コラヘス
和田カ手ニヒシトク三合火華ヲキラシ戦
フ和田備ヘヲモウケテカ、リ合テ戦ニ在京
メ居タリシ三好家ノ一門共聞カケニ馳集
テ一万五千騎ニ成ル江西ノ旗頭中合七頭

其勢一万二千三好ヲ志賀ノ細川ニライ下ニ
南北ヨリヲシツ、シテ戰フ大キニ三好敗北
シテ旗本ノ勢三千ヲ引具シ山中越ニ京へ
入是ヲ志賀合戰トイフ
畿内本目錄

- 一首四百八十三者 和田中書貞繩手取討之
- 一首五百三十一者 田中丹波守實重手取討之
- 一首三百九十八者 和介越後守秀成手取討之
- 一首二百二十九者 大津傳九郎秀資手取討之

- 一首四百五十七者 坂本七人衆手取討之
 - 一首二百六十三者 真野土佐守信重手取討之
 - 一首四百三十五者 船木十兵衛尉氏信手取討之
 - 一首三百五十九者 間宮若狭守信冬手取討之
- 討取首數合三千二百五十五

右通注文ヲ以テ江西ノ旗頭ヨリ觀音城ニ
言上ス此外味方討死注文

- 前田主膳正重信 同權兵衛尉重武
- 安元安徳齋 佐藤内匠輝成

谷口武兵衛尉兼條

九卷三之助

永田主殿頭成重

志賀甚内左衛門尉忠實

上房貞林齋

同新兵衛尉氏國

茂坂忠兵衛尉

上坂主祝助實成

藤井豊前守貞英

此外八百廿三人雜兵共ニ討死ノ由

觀音城ニ言上ス

十五日屋形箕作義賢ヲ招キ寄テ曰ク將軍

家ノ使節不下前ニ上洛ニ達ニ上聞可然ノ由

ナリ依之今日箕作殿上洛ス屋形ヨリ江東

江北ノ旗頭等サレソヘ玉フ義賢ノ所存ハ

上京ニ將軍家ノ仰悪クハ三好ト諸共ニ可

奉討トノ支度ト云

十八日自京都使節アリ義賢ノ狀ニ曰

將軍家爲仰昨十七日夜三好與義賢中和

之儀相調令無事候間尊意易可被思召候

委細種田刑部少輔可致言上將又私事公

儀上意次第ニ致下國諸事可奉得貴願候

早々言上恐惶謹言

四月十八日卯上剋

箕作義賢在判

後藤但馬守殿

廿五日箕作義賢江東ニ歸城ス

五月

五日佐々木宮祭礼如例年不及記

八日去月志賀郡ニテ抽忠戰江西ノ面々

今日加増ノ地ヲ下ニ玉ハル感狀依其勸交言

多ノ故ニ不記坂本七人組ニハ山上松本ノ

庄ヲ玉ル此七人組ト云ハ日吉七社ニ一人

ツ、神事頭ト号シテ祭祀ヲ主ル者ナリ終

ニ屋形ヨリハ一所ヲモ玉ハル事ナカリシカ

今度ノ働ニ依テ所領等ヲ玉ハル是ヨリ神

事頭ノ七人組觀音城ニ出仕マ

廿日三好修理大夫不日ニ江州ニ押寄ント

計ノヨシ公方ノ近習野村越中守方ヨリ屋

形ニ言上ス此事皆以テ京都ノ説ト云

廿一日箕作殿サヘキツテ上洛セント云屋形

大キニ腰立シテ制ス屋形ノ曰ク何ノ實ト
聞サルニ兵ヲ發スル事ナレトナリ依之義
賢上洛ナレ江州大キニサワク天下ノ説ニ
千ノクニテ幾内不安治
廿四日三好一家國ニ退ク幾内ノ説又トナリ
十ノ十ナリ
六月
十一日將軍家江東ニ移リ觀音城ニ六日御
逗留屋形近年病氣ニテ上洛ナレ依之將軍

家如此力寔至極ノ礼ナリ屋形ハ御當家ノ
後見ナレハニヤト云
屋形ハ將軍家ノ後見ナリ三好ハ近年天下
ノ執權ナリ三好屋形ヲ子タム意ツヨレ依
之ヤ、モフレハ兩家ノ家人幾内ニテ及喧嘩
事多ク

三好吾國ニライテ屋形ヲ叱咄スルノヨレラ
説ニ云屋形此事ヲ聞王ヒテ命ハ天ニアリ
人カノ及難キサカイナリトテ大キニ指笑レ玉ヲ

八月 七月 九日雲光寺ニ屋形并義賢參王フ是ハ前ノ
屋形氏綱公ノ御寺ナリ
十日澤田兵部少輔氏忠巳カ知行所ニヲヒ
テ田村權内ヲ誅之今日江北ノ面々ヨリ言
上ス屋形委細ニ糾明シテ澤田ヲ召籠テル
長命寺傳空上人預リ玉フニ
廿日將軍家ヲタイ河ニ遊ヒテ二頭ノ龜ヲ
此ル此ル

八月

三日織田上総介信長斯波殿ヲ追出シ同名
共ヲ討ノヨレ東國ヘニワリタル山伏今日屋
形ニ言上ス前ノ屋形ノ御時ヨリ江州一國
ノ山伏陰陽師ニ扶助ヲ玉ハツテ國々忍ヒ
ノ御使ニニワシ玉フ彼内ノ山伏一人今日右
ノ旨ヲ言上ス
十九日越後國長尾家礼村山美作守ヲ誅ス
依之越州大キニサワクノヨレ今日越前ノ

朝倉彈正忠ヨリ觀音城へ告來ル彼村山ト
申者ハ長尾景虎ノ姉婿也シカ甲州ノ武田
晴信ニ心ヲ合ス此科ニ依テナリ
廿七日尾州ヨリ告來ル去ル廿四日織田上
総介信長同國稻生ニテ家礼等ヲ討テ大キ
ニ利ヲ得ルノヨレナリ
廿九日山田掃部頭秀成死ス行年五十八歳
江陽評定人ノ内ナリ其器ニ當リシ者成ト
テ屋形御講字ヲ玉ハリシヨリ秀成トハ号ス

元ハ宗成ト号ス山田刑部左衛門三成力三
男ナリ

九月

三日ヨリ雨下テ九日ニ至ル江湖八合ニ成
十二日真如堂一揆ノタメニ焼失ス此一揆
ハ真如堂ノ領松崎ナリシカ過役度々ニ及
ノ依之百姓等一揆ヲ發シ彼寺ヲヤク
十五日將軍家ノ下知トシテ高木右馬頭駒
井左近大夫氏宗兩人ニ仰付テ真如堂領松

崎ノ百姓ヲ不殘北白河ノ邊ニテ誅ス都テ
男女三百五十三人
晦日屋形病氣ニ依テ今日將軍家上野輝重
ヲ江陽ニ下ス
十一月
十日和田兵内左衛門定秀ト求田右近大夫
重秀ト觀音城在番ナリシカ今日淺井下野
守祐政カ與カ上田和泉カ事ニ付テ口論ニ
及ニテ終ニ兩方サレテ死ス

十一日屋形淺井祐政ヲ觀音城ニ召寄テ昨
十日ノ宜嘩ノ儀ニ依テ祐政僻事ニ定テ出
仕ヲヤメラレ領内ニ追籠ラル
廿日木村佐渡守定景カ方ヨリ鬼神記ト云
書ヲ作テ今日屋形ニ獻ス屋形甚自愛ス
廿九日苗麻社鳴動ス此社ハ番神ノ一ナリ
十一月
十日屋形ノ伯父勢州梅戸左近大輔高實
箕作ノ義賢京極高吉右三人ノ訥詔ニ依テ

屋形今日淺井下野守祐政ヲ赦免ス祐政力
子左兵衛尉長政ハ屋形近習ニ召加ラレシカ
去月父下野守祐政蒙御不審日ヨリ江雲寺
入テ居タリレヲ父御赦免ノ上ハトテ是モ今
日觀音寺ニ出仕ス
廿四日當屋形上洛ス江西江南ノ旗頭中供
奉ス
晦日屋形江陽ニ歸城ス
十二月

四日永原氏高息源四郎ヲ大炊頭ニ成シ玉ヒ
屋形御諱字ヲ玉ハリ實高ニナシ玉フ永原ハ
屋形ノ族ナリ
八日種村大藏大夫高盛ニ真野伊加達ノ庄
ヲ玉ハル
廿日屋形ノ御名代トシテ箕作義賢上洛
江北ノ旗頭三人供奉ス年終ノ御礼ニ付テ
ナリ
廿四日比良山ノ愛宕大権現ヘ當屋形ノ御

代參トシテ種村大藏大輔社參ス是ハ本屋
形病氣禱リノ御タメトソ

此ノ人... 正月... 正月...

正月... 正月...

正月... 正月...

弘治三巳年

正月... 正月...

朔日ヨリ十五日ニ至テ御一門并旗頭中觀

音城出仕ノ次第例年ノコトレ但シ本屋形

御病氣ニ依テ諸礼ヲ請トイヘトモ見ヘ玉ハス

十六日當屋形江陽ノ八幡へ社參ス行糺等

如例年旗頭中ニ行ニ供奉ス

十七日本屋形病氣ニ依テ今日將軍家ヨリ

醫師兩人ヲ江州ニ下ス

十八日ヨリ廿日ニ至テ大雪一丈ニ余ル江
陽ニテハ前代ニモナレト云此裡兒童雪老婆
ト云化人夜々道ニ立テ人ヲトルト謂ヒテ
恐ル、事不斜後二年長タル百姓等ニテ騷
動スル事兒童ニ不異寔ニ夕、コトニアラサ
ルト云云
廿日目加多攝津守後藤祖馬守兩人兩屋形
ノ年始御名代トシテ京都ニ上世玉フナリ
本屋形ハ病氣甚キニ依テナリ當屋形本屋

形ノ病氣ヲ心許十クテ如此
廿一日箕作ノ義賢ハ幡山ノ義昌上洛廿三
日ニ歸國ナリ
廿八日本屋形病氣甚キニ依テ近國旗下ノ
面々今日觀音城ニ進參ス北陸道管領ノ國
國ヨリ長臣觀音城ニ來テ日夜ニ出仕ス寂
江陽ノ旗頭中一人モ不殘觀音城ニ番ラ勤ム
同日竹生嶋宮中鳴動ス申剋同日兵須宮ヨ
リ光物山門横川ノ中堂へ飛フ戌剋國中大

廿九日本屋形病氣甚アヤウキニ依テ其作ノ
 義賢御舎弟八幡山ノ義昌其外御一門ノ面
 面并四江ノ旗頭等ヲ御寢所ニ召集御遺言
 ノ品々十七箇條アリ本屋形仰出スノ條愚
 息義秀若年ナレハ其作ノ義賢後見ニ預管
 領職國務ヲ主トラシメヨ國ノ成敗評定ニハ
 八幡山ノ左馬頭義昌京極高吉大原中務大
 輔高保後藤但馬守等ニ義賢加テ五人禁メ

ノ詞ヲ加ヘ國政ヲ執リ行ヘ彼評定極テ後
 義秀ニウツタヘ理ヲツクシ上下ヨクテツ
 合テ諸政ヲナシ玉ヘ本屋形ノ曰ク近年吾病
 氣ノ故ニ愚意ノ趣ヲ書付玉フトテ御文籠
 ノ間ヨリ少冊一ツヲ取出サセテ右五人其外
 ノ旗頭等ヘ渡シ玉フ本屋形各ニ向テ曰ク
 タトヒ義秀ニヒカ事アリ共ツヨク諫言セ
 ヲ不用ハ國ヲ退ケヨ當家一門ノ内其器ニ
 當ル者ヲ管領トナセ恨更ニナシトノ玉フ

同日午剋日吉ノ社家權頭御幣ヲ持テ觀音
城ニ上ルニ大手ノ門ニテ美キ小童一人出
合テ吾本屋形ノ近習ナリ其幣是へ渡セト
テ飛カ、リ幣串ニトリツクト見レハ忽チ御
幣炎上御近習ト云ヒレ小童變色曰ク吾ハ
是近習ニアラレ代々屋形ノ守護神トシテ
此山ニ數百年安座ス大悲觀世音ナリトテ
武佐ノ方ヘトヒアカリ玉フカ空ヨリ社家ニ
告ケ玉フハ本屋形近キニウセハ江州ホトナク

乱テ當家ノ一門共心々ニ成リテ當城モ森
ノ木梢トナツテ野狛ノ住處ナラン事時節
ノ到來佛ガヲモ失フ所ナリ角成テニ後ハ
汝カ奉公スル日吉ノ宮中モ惡徒ノ爲ニ亡
ヒナニソ是モ時節ノ到來ナリ當家ノ氏神
佐々木ノ大明神ハ苗胤ノ絶行ニ事ヲ悲テ
去ル月ヨリ契州ノ宗廟ニ參リ玉ヒ神カラ
盡サル汝ヨク常ニ誠ヲ思ヘハ知ラスル也ト
テ終ニ飛去リ玉フ社家權頭夢ノ如ク覺テ

大手ノ坂ニ立又平井加賀守城ヨリ下ルニ
權頭タ、アキレタルケレキニテ立ケレハ加賀
守子細有ト問ヘハ右ノ通ヲ一一語ル余人ハ
更ニ見聞セスカヤウノ事ハトカク秘セヨト
テ譏スル人十カリレカ後ニ國廿ハカレク成テ
ヨリ權頭ニトヒテ記ス
同日佐々木大明神ノ額天火ニテ炎ル正一
位佐々木大明神ト書タル文字神ト云字計
殘テ殘リハ燒失又唯事ニ非トテ觀音城ニ

言上ス義賢ヲサヘテ本屋形ノ耳ニ不入彼
額ハ木工頭道風ノ筆跡ナリ此外不審ノ事
トモ多ク不違記

二月三月ノ日記紛失ス

四月

四月屋形ノ母公青樹院殿江東歸座ニ玉フ
十日志賀郡雄琴大明神ノ宮造營ノ義今日
和田ノ源内左衛尉貞氏ニ被仰付屋形ノ母
公青樹院殿ノ氏神ナリ彼宮ハ壬生氏ノ元

祖十川河野入方軒水... 五月... 五日佐々木御祭礼如例年不及記今日蒲生
以郡ニテ三足ノ子ヲ産スルノヨレ觀音城へ
言上ス
十五日將軍家白鬚明神ニ詣テ玉ヲ同十六
日ニ觀音城入玉フ同十七日ニ屋形ノ門葉
九人ニテ諸大夫ニ被仰付
光九日乾米女正カ女房天狗ニトラレ今年

三十一年ニ當テ古御ニカヘツテ異國本朝名
與事共ヲ語ル中ニ朝鮮國ノ全羅道ノ光朝
子カ作りタル狗犬記ノ事ヲ語ルコノヨレ
今日觀音城ニ言上ス依之屋形ノ後見義賢
ノ仰トシテ近日觀音城ニ召入ラルヘキノヨレ
ヲ仰出ス
六月
三日伊庭民部少輔實宗入道永春卒ス行年
七十八歳此入道八前屋形義實公ノ代數

ノ軍志有テ屋形二代内證文十八通ナリ殊
前屋形ノ御諱字ヲ玉ハツテ實宗ト云ニナリ
光日河内國堀江河内守實遠今月十八日ニ
卒スル人ヨシ今日觀音城ニ言上ス此堀江
ハ數年當家ノ御旗下ニテ其器ニ當リタハ
窮士ナリ
七月ノ大晴ノ事ハ
九月屋形雲光寺ニ參ル此寺ハ屋形ノ祖父
氏綱公ノ御寺ナリ

十三日地震申刻同日酉刻ニ西方ニ地ヨリ
雲ノ間ニ至テ火ノ筋立ツ宿老ノ真儒曰甚
天下大火事ノ兆也上云果テ今十六日將軍
ノ御所ヨリ火出洛中五十六町焼失ル
廿五日北野御社へ將軍家詣ス行烈等重テ
可記次第多シ

八月
三日東光寺ニテ前屋形義實公ノ御吊アリ
友部ノ妙典アリ導師山門惠心院僧正ナリ

去月ヨリ今日ニ至テ七日ニ至ル
同日屋形并後見義賢息義弼屋形ノ伯父ハ
幡山義昌其外一門ノ面々旗頭等彼寺ニ參詣ス

正徳九月

五月未剋今上皇帝崩御奉号後奈良院諱知
仁後柏原院ノ皇子也御母ハ豊樂門院贈左
大臣教秀公ノ御女也大永六年四月廿九日
太子踐祚元年ハ丁亥ニアリ至天文五年
二月廿六日正シク位ニツキ玉フ御在位ハ都

テ三十一年十リ

六日將軍家皇家ノ御廟寺ニ詣ス

七日屋形上洛ス旗頭等七組等供奉ス近國

ノ大名不殘上洛ナリ後見義賢ハ依病氣上

洛ナリ

廿四日屋形自將軍家御諱字ヲ玉ハツテ義

秀ト云

廿五日江陽ノ旗頭等觀音城ニ出仕シ賀ス

廿三十月

廿三日屋形伯父左馬頭義昌上洛シ息河端
中勢大夫晴時ヲ討ツ將軍家ノ仰トシ如此
終ニ將軍家ノ又仰トシテ二男左近大夫ヲ
河端ノ家ヲツカシム也後ニ輝綱ト云ハ是
ナリ將軍家ノ近習ナリ
廿七日辰剋太子踐祚紫震殿ノ庭上ニ万歳
樂ノ大旗ヲ夕テ七星ノ公卿庭上ニ立ツ今
土皇玉座ニ出座シ玉ヒ土用八專ノ表仁庭
中ニ參リ十二人ノ十二神殿ノ前ニ二行ニ

立ツ宵晨ノ兩明星西東ニ行ク南門ヲ開キ
貴賤ヲ出入サス天子玉座ノ左右ニ十二人
ノ雲女蓋柄ヲサケニ行ニ立ツ委ハ別卷ニ
記ス甚多キ依テ日記ニノセカタシ
廿八日將軍家參内シテ代々ノ重寶足利丸
ト云太刀ヲ獻ス作ハ正宗寸ハ三尺二寸是
當家ノ秘藏ナリ
廿九日諸國主ヨリ太刀一腰ニ白銀ヲ添フ
時ノ傳奏是ヲ請取ル同日屋形從四位侍從

二任^ニせ^ラル^ル今日仕官ノ國主以上十一人ナリ
大正十一年十一月
朔日本屋形病氣^{ヒヤキ}十死^シ一生^シナリ御一門ノ面
面旗頭^{オモカシラ}等ニ至^ルニテ御遺物^{オモイモノ}ヲ玉ハルニテ是
二日將軍家ヨリ上野輝^{ヒル}時^{トキ}上使^{ノリ}トシテ江東
ニ來^テ本屋形ノ病氣重^シ輕^クヲ伺^ヒフ將軍家懇^ニ
志^シノ御書下^ルル本屋形ハ前將軍義晴^{ヨシハル}公ノ仰
トノ當將軍家ノ後見夕^タリ既^ニ以^テ北陸道^{ホクリクミチ}
ノ管領^{クワンリョウ}職^{シヨク}ニ任^セラ^レ玉^ヒテ宰相^{サイキヤウ}ニテ上^リ玉

ハ八當將軍家ノ御悲^{オノカヒ}ハ當屋形ヨリハスキ
夕^タリト云^フ
六日七日八日皇家御代初ノ御能^{ノリ}アリ
十一日於禁裏^{イナリ}御代替^{ヨカガヒ}ノ御修^シ法^{ホウ}アリ妙^{タカ}法院^{イン}
ノ門主令^{ノリ}修^セ之^シ玉^フ
十五日屋形ノ御一門中江陽^{コウヤウ}ニカヘル
十九日江州津田ノ入江ニ菖蒲^{シヨウボ}白^{シラ}キ華^{ハナ}サク
ノヨシ今日彼所ノ地頭^{ヂチウ}乾^{イダシ}兵部少輔^{ヘイブシウボ}實忠^{サチタカ}力^{チカラ}
方ヨリ觀音城^{クワンオンシヨウ}へ言^ハ上^ス

廿二日天氣快晴辰刻本屋形他界御壽八五
十一歲御前并當屋形ノ悲三甚シ
廿四日本屋形ヲ野湏郡幸津河ノ庄ニ移ス
後藤進藤ノ兩藤御棺ノ左右ニ供奉ス旗頭
ノ内七人前馳ス右ハ本屋形依御遺言幸津
河ノ庄ニ葬リ奉ル廿騎組十組都テ二百騎
御棺ノ番ニツク本屋形ノ御在世ノ時ノ近
習其外下部ニ至ルニテ不殘剃髮
廿五日御葬禮鎖龕ハ山門惠心院尊空僧正

起龕ハ三井ノ勸學院石田僧正下火ハ威德
院ノ東光和尚謚名東光院殿贈權中納言三
品崇山大居士此贈官ハ自將軍家下王ヲ同
日將軍家ノ御名代トシテ細川刑部少輔輝
賢江東ニ下ル將軍家御哀傷ノ御自筆ヲ洩
ラレテ

近列の太守依本才一世の忠婦小修及の後
家傳實朝后ハ予ク慈父のニトシテ
人世小ありしりる天下の後見うて武威

乃たうかりし事うとありのいつるにらりてか
うもくろくうもいふりてふさけくあるる成
一首と追考のためんつりくゆり
たぢのともいおきてらるるはらるるさか
東光院殿御吊之次第廿五日、轉經廿六日、頓
寫施餓鬼廿七日、懺法廿八日、入室廿九日、關
維晦日、宿忌、士、水、御、宣、の、日、心、具、對、下、三、日、御
十一月、尚、益、名、東、光、院、殿、御、懸、中、斷、言、三
朔、日、陞、座、拈、香、十、日、御、行、御、宣、五、日、御、宣、六、日、御

三日佐々木社臨時ノ御祭礼例年ノ如ク屋
形服ノ中ニ依テ社參十ニ其外一門ノ面々
一人モ社參セス今日屋形義實郷ノ廟ニ參
り玉フ
十五日當屋形ノ母公剃髮号青樹院殿御師
八山門ノ惠心院僧正十リ
十七日義實郷ノ廟ヲ号東光寺
十八日東光院殿ノ依遺言其作ノ義賢觀音
城移入ス箕作ノ城ヲ息右衛門督義彌へ與

讓ル今日將軍家御不例ニ依テ當國ヨリ兩
藤ヲ上世玉フ同日京北九町燒失ス
廿日義賢ト八幡山ノ義昌座論アリ義賢ハ
當屋形若年故ニ預管領職殊前屋形ノ仰トシ
連枝ニナシ玉フ然ハ義昌ヨリ年長旁義賢ニ
柳多シテ義昌ヨリ上座ニ玉フ義昌ハ前屋
形ノ實弟ナリ義賢ハ前屋形ノ伯父定頼ノ
子ニテ前屋形トハ從弟ナリシヲ今連枝ニ
ナリ玉ヘハ義昌ノ不キトヲリ家ト國人云是

ヨリシテ義賢義昌不和ノ初メナリ今日三
井豐前守氏春覺雲軒卒ス八十三屋形三代
氏綱公義實公當屋形ニ至ルニテ抽忠義ヲ
翁也屋形甚悲テ後家ニ日野ノ穴村ヲ玉ハル
廿四日屋形ノ母公青樹院殿上洛ス池田日
向守氏政供奉ス剃髮シテ初テノ上洛ナリ
廿五日上菩提院燒亡ス子剋

武原為謝卷後子孫不例...
能方上...
此正日出善洪...
向春納...
此...
納...
我...
...



